

宮川ひろの 児童文学と教育



『るすばん先生』ポプラ社刊
作 宮川ひろ
絵 菊池貞雄



『先生のつうしんぼ』
偕成社刊
作 宮川ひろ
絵 小野かおる



『Oてんにかんぱい!』童心社刊
作 宮川ひろ 絵 小泉るみ子



『びゅんびゅんごまがまわったら』童心社刊
作 宮川ひろ 絵 林明子

子どもたちの遊びと学び
いじめ、不登校、教員の悩み…

約半世紀にわたって 数多くの児童文学作品を発表した宮川ひろ。
作品に描かれた〈子ども〉や〈先生〉を通して、教育について考えます。

宮城教育大学附属図書館 展示ホール

10月30日(金) - 12月1日(火)

平日 9時 - 22時 | 土日祝 10時 - 17時

※学外の方は事前申し込みが必要です(裏面をご覧ください)

お問い合わせ 022-214-3350

宮川ひろの児童文学と教育

10月30日(金)～12月1日(火)

展示概要

宮川ひろ(1923～2018)は、デビュー作の『るすばん先生』(1969年 ポプラ社)、代表作の『先生をつうしんぼ』(1976年 偕成社)、『びゅんびゅんごまがまわったら』(1982年 童心社)など、学校を舞台とする児童文学作品を数多く発表した作家です。1960年代の終わりから2010年代まで約50年間、〈子ども〉や〈先生〉を描き続けました。その作品には、いじめや不登校をはじめ、教育をめぐる様々な問題も描かれています。

本展示では、宮川ひろの児童文学から教員養成の手がかりを探ります。宮川ひろと教育とのかかわりを概観したうえで、作品に描かれた〈子ども〉像や〈先生〉像、教育をめぐる問題等について考えます。また、その創作手法について検討します。

第1章 宮川ひろと教育

「学校の先生になりたい」と思っていたという幼年時代、戦中には教員として学童疎開の引率をしたこと、児童文学作家としての出発など、宮川ひろの人生の展開を、教育とのかかわりを視野に入れて概観します。

また、『学校もの』の作品群の創作手法について紹介します。宮川ひろの児童文学がどのように教材化されてきたのか、国語の教科書の展示も行います。

第2章 作品の中の〈子ども〉〈先生〉

宮川ひろの作品に登場する〈子ども〉と〈先生〉を紹介します。子どもたちは何を思い、どのような行動をするのでしょうか。先生たちは子どもとどのように向き合っているのでしょうか。物語の内容に言及しながら、描かれた〈子ども〉像、〈先生〉像について考えます。作中で取り上げられている子どもや学校、教育をめぐる問題にもふれていきます。

第3章 かかわりが深い児童文学者

かかわりが深い児童文学者に焦点を当てます。児童文学の師匠・坪田譲治、作品発表の導き手となった今西祐行、それぞれのデビュー前に同人雑誌『どうわ教室』で勉強した時期から50年にわたって交流を続けたあまみきみこ、長男であり創作の協力者でもあった宮川健郎の4人を取り上げ、著作物を紹介するとともに、宮川ひろとのかかわりを解説します。

関連イベント

展示解説

下記の日時におきまして、附属図書館館長(国語教育講座 教授 中地文)による展示解説を行います。

どなたも参加できますので会場にお集まりください。

【日時】

第1回 11月 4日(水) 12:05～12:15
第2回 11月 19日(木) 12:05～12:15

【場所】

1階展示ホール

トークイベント

第1部 宮川ひろの児童文学と教育

宮川 健郎 (大阪国際児童文学振興財団理事長)
大木 葉子 (東北工業大学准教授)
中地 文 (附属図書館館長、本学教授)

第2部 家族から見た〈宮川ひろ〉

宮川 健郎 (宮川ひろ ご令息)
宮川 朋 (同 ご令孫)
大木 葉子 (司会)

【日時】

11月 30日(月) 13:30～15:30

【場所】

2号館2階229教室

学内MAP



宮城教育大学附属図書館

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL: 022-214-3350

E-Mail: toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

http://library.miyakyo-u.ac.jp/

https://twitter.com/muelibrary



【交通案内】

●地下鉄 東西線

「仙台」駅から「八木山動物公園」行き乗車、

「青葉山」駅下車(乗車時間9分、料金250円)

「青葉山」駅「北1出口」から大学正門まで徒歩7分

学外者事前申込フォーム

